



一口タスルート

さあ、つながって行こう! みんなで花を育てよう!!

日蓮宗

正中山別院 護国山妙法華院

〒652-0816 神戸市兵庫区永沢町4-5-8
TEL(078)575-2608 FAX(078)577-7651
kobe@myohokkein.jp

<http://www.myohokkein.jp/>

2015年(平成27年)1月1日発行
「ろおたす」からの〜通算393号

Vol.12

人は善根をなせば必ずさかう

〔上野殿御返事〕



れんこん日記 そんなバナナ…
2014年10月24日(金)

ちょっとした衝撃だった。孫はおばちゃんの名前を知らない? フトしたことから、友人が「おばちゃんの名前が判らない」と言った。判と頻りに会っているのにも関わらずである。「ええーっそんなバナナ!」と、私は驚きを隠せなかったが、女房は「意外と多いかもよ」とのたまう。そう言えば、ウチの三男坊にも恐る恐る聞いてみると、やはり判らなかった。この様子だと、長男も次男も判らないだろう。親しくてよく会っているが名前を呼ぶことは確かに無い。おそらくお祖母と判れて書らす様家族が原因なのだと思う。特に祖母は意外と遠とし穴なのかもしれない。一緒に住んでいれば、表札や手紙を目にする機会もあり、いくらなんでも判らなないだろう。タラちゃんは「バナナ」と言い切るハズだ。皆さんも子供に判かめてみてはどうでしょう。

心者



節目もあき
かえり続けた
つなぐ
2015年

絵画/宇陽



当山の池でも蓮と水蓮の栽培にチャレンジです

明けましておめでとうございます。この寺報も今回で12号目となりました。お寺は改修工事を終え再出発した事もあり、また新年を迎えましたので、心機一転。寺報もリニューアルして、A版仕立てに変更する事にしました。先代の「ろおたす」の時代よりずっと寺報はB版で通してきましたが、時代の流れはA版が主流です。私の代になって、カラー版の寺報に変えた時から、いずれA版に変更する事を念頭において製作してきました。ちょうど前回で「LOTUSROOT」から「れんこん」へのタイトルロゴ変更プロジェクト任務も終了しましたし、良い節目となりましたので、今回より誌面を大きくします。高齢者の方から、「読みたいけれども字が小さい」という苦言も寄せられていましたので、その点は大きく解消されます。

「れんこん」…なにかふざけているようにも取られかねない、ユーモラスなイメージのある野菜ですが、蓮の根っこです。泥の中にあるれんこんは、その汚れた水から栄養を補充し、茎を大空に向かって伸ばし、可憐な美しい花を咲かせる力を蓄えています。それは煩惱や欲望にまみれた世間という泥

つもりはありませんが、時代の流れを先取りし、面白くて斬新な、他に類を見ない寺報づくりにチャレンジしていくつもりです。

「れんこん」…なにかふざけているようにも取られかねない、ユーモラスなイメージのある野菜ですが、蓮の根っこです。泥の中にあるれんこんは、その汚れた水から栄養を補充し、茎を大空に向かって伸ばし、可憐な美しい花を咲かせる力を蓄えています。それは煩惱や欲望にまみれた世間という泥

の中に居ながらも、それに染まらずに妙法に生きる力を持っているという事なのです。

住職 新聞 智孝

不染世間法 如蓮華在水

挙手をお願いします

師僧の時代から當山の寺報は、檀家さんのみならず、親戚・知人を始め本宗教師やマスコミ等に機会があることに配布したり、送付してきました。私もその意向を受け継いで、恥ずかしながらこの寺報を檀家さん以外の有縁の方に、お送りさせて頂いています。しかしいつも私が懸念しているのは、教あるダイレクトメールと同じで、興味ある人にも無い方へもこちらから送りつけている形になります。「迷惑をかけているのでは無いか」といつもそれが気がかりでした。「楽しみにしています」とか「読んでます」とお声がけを頂いた方は良いのですが、迷惑な方も大勢いらっしゃると思います。

尚、今回は年賀状を兼ねていますので、有縁の方全てにお送り致します。

開創一三〇周年記念法要

宗祖七三三年お公式・第三期増改築落慶

日修代最初で最後の大イベント

11月23日の記念法要当日は、仏祖三宝のお陰を持って素晴らしい好天気に恵まれました。そんな貴重な連休の日曜日に、遊びにも行かず、家でゆっくりせず、また神戸マラソンも走らずに、当山の記念法要にご参列・お参り頂いた方は、本当に有り難うございました。

小春日和に恵まれましたが、やはり一年ぶりの水行の水は、思ったよりも冷たかったです。しかし心臓麻痺で倒れることも無く、最後まで無事に法要をお勤めする事が出来ました。

さて前日まで、本当に落慶法要が厳修できるのか、ハラハラドキドキの毎日でした。しかし業者の方々に頑張ってもらって、突貫工事でもなんとか出来たところまで持っていくことが出来ました。

師僧が今の本堂を建てられた時も多くのの方がその斬新さにビックリされましたが、今回の増改築もガラス張りのカーテンウォールになって、やはり皆さん驚かれた事と思います。私は、師僧が建てられたこのお堂をさらに活かすべく、梁を落として三宝尊を後ろの席からでも拝めるように改修し、内陣を切り詰めて靴を脱がなくても焼香が出来るようにしました。壁を抜き窓を作ることにすることで明るさを確保し、ご宝前に向かって左側を広げ、左右対称にしました。中庭を見えるようにしたので、和の安らぎを少しでも感じて頂けたらと思います。

道場・会議室・事務所・トイレも改装しました。1階は全て車を停めやすい駐車場として、歩道を切り下



五事もサボらずに、関心もいました。

始	開式の辞	昇堂太鼓	唱題	水神開眼	水行披露	唱題	瀧水散華	導師式衆入堂	道場偈	讚歎	開経偈	読経	呪願	中樂	慶讃奉告文	中樂	読経	焼香(代表・一覽廻し)	祖訓拝読	唱題	四弘誓願	回向	奉送	閉式の辞	導師式衆退堂	別	特別記念法話
---	------	------	----	------	------	----	------	--------	-----	----	-----	----	----	----	-------	----	----	-------------	------	----	------	----	----	------	--------	---	--------



【クイズ】この写真の不自然さに気づいた人はお寺まで(笑)。(ヒント)ハトはいますが、スズメはいません。

うれしい設備がいろいろ増え、新しく生まれ変わった本堂です。

特別法話

妙國寺 岡部日燈院下 御親修

岡部日燈院下のお話は、御会式の由来に始まり、お題目の意味。そして即身成仏とは何か、という解説から入られました。「施す」という行為についても詳しく触れられ、何故、葬儀のお布施は高いのか？という素朴な皆さんの疑問に、答えて頂きました。無財の七施という誰にでも出来る行動として具体的な例をホワイトボードに書いて頂きながら、判りやすくお話し下さいました。人は善根をなせば栄えます。皆さん、新しいお寺で更なる布施の浄行(徳)を積んで下さい。

開眼 2014年11月14日(金)

防犯カメラを設置しました。色んな機能が搭載され、いつでも遠隔監視できます。死角が多い当山もこれで、パッチリです。何時でもどこでもアナタ！見られていますよ。これで当山に泥神は入れません。しかし私の行動も何時も見られている環境下になり、自分の首を絞めているような...



山門は黒門で

2014年10月24日(金)

干葉の下総中山・法華経寺へ、落慶法要のご挨拶と山門デザインの手合わせに行きました。そこで設計士と二人で、本物の本阿彌光悦の扁額を見させて頂きました。間近で見ると、その「正中山」の文字に、二人ともは倒されたはなし。當山の建物に、その光悦の字を頂き、どなたか活かされた形で表現できるか、結構なプレッシャーです。師僧の遺徳を偲んだ形の山門にしたいと考えています。





師僧の残した「LOTUS」星座と爆弾→ハートのレリーフはよく目立つようになりました。

タに乗れるようにしました。バザーやもちつき、イベントにも使いやすい広場と倉庫も整備を致しました。残念ながら、当日は庫裡の中まで仕上げる事が出来ませんでした。しかし正月頃には、私ども家族も新築部へ移転し、離れの解体とコインパーキングの整備をする予定です。当日は、法華経寺の新井日蓮下より開祖日亀上人の御曼荼羅を頂き、清水教信所長さまからは、暖かいご祝辞も賜りました。

げ整備する一方で、エントランスを設けて足の悪い方や車椅子の方でも1階から直接エレベーターに乗れるようにしました。バザーやもちつき、イベントにも使いやすい広場と倉庫も整備を致しました。残念ながら、当日は庫裡の中まで仕上げる事が出来ませんでした。しかし正月頃には、私ども家族も新築部へ移転し、離れの解体とコインパーキングの整備をする予定です。当日は、法華経寺の新井日蓮下より開祖日亀上人の御曼荼羅を頂き、清水教信所長さまからは、暖かいご祝辞も賜りました。

妙國寺の岡部日聰下下にて御親修頂き、参加者一同皆、楽しんで記念法話に耳を傾けました。法縁の御寺院各聖にも物心両面からサポートしてもらい、本当に皆さまのおかげで、素晴らしいお会式と落慶の開創一三〇周年記念法要が営めました。

心より御礼申し上げます。これを機にドンドンまたお寺にお参りに来て下さい。また工事業者の方は、これもせつかくの縁ですから、是非ともこの機会に、日蓮宗に改宗されますよう私の方からお勧めさせていただきます。(笑)

南無妙法蓮華經

ほんこん日記
2014年11月28日(金)

本当にあったちょっと怖い話

今回の建繕に引っかかる古い樫の木をやむなく切った。戦前からある木なので、師僧もあまり手入れをせずに、成長するがまま長い間まっただけにしていて、私は少しでも何かが形に残そうと、建築屋に「製材してテーブルにして欲しい」と頼んでおいた。結局、まとまった材料としては取れないので、テラの木を天板に据えてテーブルの脚だけ利用となった。話を聞くと木の中は、無数の釘が入っていたと言う。ん？ワラ人形か？ 私が子供の頃にイタズラしたんだっけか？ 良く思い出せない。どちらにしても地獄の時に、修法をしておいて正解だった。また、今そのドンガラから二世を育てている。大切にしなければ、と改めて痛感している。ちなみに建築屋は寝も広えす製材業者に依頼をしたようだ。『これ、もしかしてお寺が神社の木ぢやないですか?』と問い当てたらしい。



